

# 釧路出身・東京の望月さん

# 90歳 自慢の歌声 動画 96本

コロナ禍でも歌声を届けたい。東京都目黒区で音楽喫茶を営む望月<sup>もちづき</sup>迪子<sup>ぢこ</sup>さん(90)が、動画投稿サイト「YouTube」で趣味の歌の投稿を1年半以上続け、2月にも100回に達する。生まれ育った釧路市で習い、合唱団で活躍した自慢ののどは今も現役。「コロナ禍で会えない友人や道内の家族に、大好きな歌を歌っている元気な姿を見せたい」と、息子たちの力を借りて撮影に臨む。

(大沢祥子)

「Amazing grace<sup>ホウ</sup>how sweet the sound (素晴らしき神の恵み 何と甘美な響きか)」。昨年12月20日、望月さんは店内で三男直哉さんと(58)のチェロの音色に合わせ、賛美歌「アメージング・グレース」を英語と日本語で3番まで表現豊かに熱唱した。

約2分半の歌だが、収録は1時間以上かかった。プロの動画が完成した。

チェロ奏者である直哉さんの指導で、音程やリズムを細かく修正。口の形や衣装のブローチの位置も直し、10回ほど撮影した。「もう歌えないと思うほどつらい時もあるけれど、駄目なものを出したくない」と望月さん。直哉さんとピアノ調律師の次男文哉さん(63)とのトークも撮影し、94回目の投稿となる約10分間の動画が完成した。



動画投稿に向け、三男直哉さんのチェロ伴奏に合わせ「アメージング・グレース」を歌う望月迪子さん(左)＝昨年12月、東京都目黒区(富田茂樹撮影)